

平成 21 年 1 月 27 日

## 第 18 回日本医療薬学会年会実施報告書

第 18 回日本医療薬学会年会

年会長 井関 健

北海道大学大学院薬学研究院 教授

事業名： 第 18 回日本医療薬学会年会

主催者名： 日本医療薬学会

年会長：井関 健（北海道大学大学院薬学研究院 教授）

会 頭：北田 光一（千葉大学医学部附属病院薬剤部 薬剤部長）

後援： 日本病院薬剤師会、北海道病院薬剤師会、日本薬剤師会、北海道薬剤師会、  
日本製薬団体連合会、日本薬科機器協会、北海道

実施日程： 平成 20 年 9 月 20 日（土）・21 日（日）

実施場所： 札幌コンベンションセンター

〒003-0006 札幌市白石区東札幌 6 条 1 丁目 1-1

TEL: 011-817-1010 FAX: 011-820-4300

札幌市産業振興センター

〒003-0006 札幌市白石区東札幌 5 条 1 丁目 1-1

TEL: 011-820-3033 FAX: 011-820-3220

北海道大学薬学部

〒060-0812 札幌市北区北 12 条西 6 丁目

TEL: 011-716-2111 FAX: 011-706-4989

## 年会の趣旨

日本医療薬学会は、平成2年日本病院薬剤師会を母体として、医療現場に携わる薬剤師のみならず、医療薬学に関する教育研究者ならびに創薬に関わる薬学研究者の集まりである。近年の薬剤師職能の専門化および高度化などの理由から会員数は漸増し、現在は6,000名を越えている。第18回日本医療薬学会年会は、平成20年9月20日（土）・21日（日）両日にわたり、札幌市（札幌コンベンションセンター、札幌市産業振興センター）において開催した。

医療を取り巻く周囲の環境は激変し続けており、しかもその将来は必ずしも明るい未来ばかりとはいえない。また、その中で薬学が果たす役割を明確にする必要性も増大していることは疑う余地もない。6年制薬学教育においても、これから共用試験および長期実務実習などの薬学の分野ではこれまで未経験であった多くの事柄を乗り越えていかなければならない。

以上のことから、本年会のメインテーマは「来るべき時代への道を拓く」とし、特別講演5題（うち市民公開講座2題）、シンポジウム15題、ワークショップ4題、共催セミナーとして、ランチョンセミナー16題、初めての試みとしてスイーツセミナーを2題企画した。学会前日には同会場にて日本病院薬剤師会病院薬局協議会、翌日には北海道大学薬学部にて市民公開講座および第15回ファーマサイエンスフォーラムを開催した。各会場では医療薬学領域における様々な問題点、あるいは今後の薬学教育に関わる課題に関する至適なアプローチについての具体的な意見を集約することとした。これら十分な議論の中から6年制教育の先に見えてくる薬剤師業務の世界を自己評価することができる。特に、がんチーム医療、救急医療における薬剤師の役割、スポーツ界でのドーピング問題での薬剤師の貢献などをシンポジウムのテーマとして取り上げ、社会からの要請にいかに応えるかを討論した。また、これらのテーマに関連して海外から特別講演を招聘すると共に、中国および韓国を中心とした各国にも参加を呼びかけ、21世紀の医療薬学をよりグローバルに議論する機会を提供することとした。さらに、本学会の活動を理解していただくための貴重な機会として一般市民に向けた「食と健康」に関する市民公開講座を行った。

これから先の時代、すなわち6年制を卒業した薬剤師のみならず、実務実習などにて医療現場で実際に教育する側となった薬剤師に向けて、「次は何を目指すべきなのか」を考える絶好の機会となる。北海道発祥のフロンティア・スピリットを薬学の新たな展開・発展に注入し、それに関わる教育・研究・行政を討論する機会となれば幸いである。

## 会費等の設定

参加費	：	会員	8,000 円 (事前登録)	12,000 円 (当日登録)
		非会員	12,000 円 (事前登録)	15,000 円 (当日登録)
		学生	3,000 円 (事前登録)	4,000 円 (当日登録)
		海外		10,000 円 (当日登録)
懇親会費	：	一般	8,000 円 (事前登録)	10,000 円 (当日登録)
		学生	4,000 円 (事前登録)	8,000 円 (当日登録)
		海外		10,000 円 (当日登録)
講演要旨集	：	会員	3,000 円 (当日登録)	
		非会員	5,000 円 (当日登録)	
市民公開講座	：		無料	
ワークショップ (予約制)	：		無料	

## 事業内容

1. メインテーマ	「来るべき時代への道を拓く」
2. 年会長講演	1 題
3. 日本医療薬学会学術貢献賞受賞講演	1 題
4. 日本医療薬学会奨励賞受賞講演	1 題
5. 特別講演	5 題 (うち 2 題は市民公開講座)
6. シンポジウム	15 題 (うち 1 題は共催シンポジウム)
7. ワークショップ	4 企画
8. 一般演題	1375 題 (口頭 228 題・ポスター 1,147 題)
9. 共催セミナー	18 題 (ランチョンセミナー 16、スイーツセミナー 2)

## 参加者数

	事前登録参加者			当日登録参加者			総数		
	会員	非会員	学生	会員	非会員	学生	会員	非会員	学生
病院	1549	495	0	495	241	0	2044	736	0
薬局	63	60	0	35	43	0	98	103	0
大学	289	17	215	99	33	141	388	50	356
企業	35	39	0	33	164	0	68	203	0
その他	20	21	0	20	37	0	40	58	0
計	1956	632	215	682	518	141	2638	1150	356
合計	2803			1393 (海外 52)			4196 (海外 52)		

招待	111 名	(うち外国人 24 名)
市民公開講座	52 名	
スタッフ	108 名	

総数 4,467 名

## 事業成果

第18回日本医療薬学会年會を平成20年9月20日(土)21日(日)の両日、札幌市コンベンションセンター他で開催したところ、その出席者は4500名近くに達した。一般演題はこれまでの年會の中でも最も多い申込があり、昨年同様、倫理的問題および日本医療薬学会会員資格などに留意し、組織委員会にて厳正な採択審査を行い、数演題を却下したほか、相当数の演題要旨に訂正を求めた。最終的には口頭発表228演題、ポスター発表1,147演題、計1,375演題に達した。また、年會前日9月19日(金)には同会場にて日本病院薬剤師会主催の病院薬局協議会、年會翌日9月22日(月)には北海道大学薬学部にて第15回PharmaScienceフォーラムを開催した。

本年會のメインテーマは「来るべき時代への道を拓く」と設定し、各国における医療薬学の果たすべき役割を討論する国際シンポジウム、薬剤師のスキルアップのための参加型ワークショップなどを企画した。また、今回は従来活発に行われてきた多くのシンポジウムテーマの中から少し内容を絞り込み、がん治療、妊婦・授乳婦の薬物療法、救急医療等における薬剤師業務を取り上げた。さらに、スポーツ医学との関連からドーピングの問題にスポットライトを当て、薬学をバックグラウンドとして社会の要請にいかに応えるかを討論した。救急医療やドーピングの問題は、これまでほとんど取り上げられたことはなく、主要な課題とはされてなかった領域であったが、新設薬科大学の増加等々の社会状況を考慮し薬剤師の職能拡大を考えた時、これらの領域へも積極的に出て行くべきであろう。また、これらのテーマに関連して海外から特別講演や招待講演者を招聘すると共に、一昨年、昨年に引き続き韓国、中国を始め東アジア各国にも参加を呼びかけ、21世紀の医療薬学を地球規模で議論する機会を提供した。特に本年會では特別講演2の演者に北京大学医学部附属第三医院薬剤部長 Zhai Suodi 先生を招聘して、中国の薬剤師業務の最新事情をご紹介いただいた。特別講演1としては、北海道大学病院病院長である浅香正博先生から「消化性潰瘍薬剤治療の劇的変遷」と題して、その病態および薬物療法についてお話いただいた。特別講演3ではMD Anderson Cancer CenterのSusan M. Spivey先生から「癌化学療法におけるチーム医療のあり方」について概説いただいた。また、従来のランチョンセミナーに加え、北海道の食文化の特色を生かして「スイーツセミナー」を企画し、糖尿病患者さんも美味しく食べることができるスイーツなどについてご提案いただいた。特別講演4・5は「食と健康」をテーマに市民公開講座として一般に開放し、今後の医療における薬剤師の果たすべき役割を理解していただくことができたと考える。

本年會では、札幌コンベンションセンターを中心として会場を設定したため、会場間をほとんど移動することなく議論に集中できたものと考えている。ポスター会場についても通路の間隔を広く設定し、示説時の混雑を大幅に緩和した。また、日本薬科機器協会機器展示についてもポスター会場1階に設定したため、参加者および展示企業各社には好評であった。札幌市産業振興センターにて開催したワークショップは少人数でのグループ討論を含む内容であり、会場への案内

表示など不十分な点もあったが、主催者および参加者には集中して体験できたと思われた。年会参加者は、講演、シンポジウム、ポスター発表、あるいは展示からの情報収集ばかりでなく、参加型企画による薬剤師職能のスキルアップも強く要望しており、今後の年会運営に示唆を与えるものである。

最後に、第18回年会（札幌）は「来るべき時代への道を拓く」ことをメインテーマとした。薬剤師および薬学教育に関わる大学教員が、医薬品の適正使用に貢献すべく今後大いなる飛躍を遂げるための有意義な討論をする機会となれば幸いである。